事例No.	2360
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	集落活動センターあわ

事例区分	地域活性化

タグ	・移住定住 ・歳入確保 ・地域運営組織

事例種類	地域運営組織

事例内容・タイトル

地域運営組織の持続的な運営に向けた
取組（集落活動センターあわ）

出典

地域運営組織の持続的な運営に向けた取組事例集

集落活動センターあわ ①

【概要】

立地自治体		高知県須崎市	人口規模		約700人
設立年度		平成30年度	活動エリア		その他（小学校存在）
構成団体	構成団体	・集落活動センターあわ ・地域住民会議 ・小学校PTA ・保育園保護者会 ・婦人会 ・防災協議会 ・賢山会	法人格の有無		無
			体制		役員とは別の事務局体制を確保
			詳細	役員	非常勤・無償5名
				役員以外	8名（うち常勤・有償2名、非常勤・無償6名）
	協力団体	青壮会（30～60代の交流会）	ホームページなど		https://awa-susaki.jp/

【具体的な活動内容】

【子ども支援・子育て支援】

■ 放課後子ども教室の運営

- PTA、保護者会とともに、運動会や田植え体験、読み聞かせボランティアなどを実施するとともに、下校後の子どもたちの勉強を地域住民が指導する取組も行っている。

【地域産業活性化】

■ 特産品の製造・販売、流通促進

- 地域の農産物等を加工した製品（「びわジャム」「黒ニンニク」「はちみつ」等）を製造・販売している。
- 地域内にある耕作放棄地を活用して、にんにくやイタドリ、バタフライピー等の野菜を栽培し、流通販路の拡大や商品開発等にも取り組んでいる。

【地域環境整備・その他】

■ 空き家調査と移住促進

- 空き家の状況を住民が手分けして調査し、空き家や貸家、売家マップ作成したり、空き家の管理や移住者等とのマッチングを行っている。
- 空き家の賃貸や売買に際し、家主と移住者との間を取り持ち、良好なコミュニケーションの構築に努めている。

集落活動センターあわ ②

【住民の声を反映している取組事例】

取り組み	集落活動センターを核とした集落維持の仕組みづくり
経緯・狙い	• 人口減少や少子高齢化の進行に伴い様々な地域課題が顕在化するなか、保育園と小学校の統廃合が持ち上がったことがきっかけとなり、地域内の各種団体が連携し「集落活動センターあわ」を設立した。 • 以降、「集落活動センターあわ」が中心になり、地域課題解決や地域活性化に関する事業を展開している。
取組の概要	• 「特産品部会」「移住促進部会」「観光交流部会」「ハッピーライフ部会」「教育協働部会」等の部会活動を中心に、地域コミュニティの活性化や課題解決に向けた様々な活動を実施している。 • 月に1回役員会を開催し、それぞれの団体から見た地域課題を共有し、解決策について議論している。その際、実際に解決できる/できないに過度に捉われることがないように留意している。また、各部会の活動計画を共有・協議する場も設定している。 • 実際の活動は40～50名程度で実施しており、活動内容に応じて個別に参加者に声がけするとともに、現役世代でも活動に参加しやすいよう、活動日時の設定を工夫している。 • 特産品はふるさと納税の返礼品にもなっており、日々目に見える成果があることと、女性が関わっていることで活気がある活動を続けることができている。 • 積極的な広報と、直接的な声がけによって活動の輪が広がり、地域外からも連携の打診が来る状況である。 出典：集落活動センターあわ　資料
成果	• 空き家調査と移住促進の取組を通じて、移住者と地域をマッチングすることができた。 • 他地域の団体等から、一緒に活動したいという声がけが増えており、関係人口の確保にもつながっている。 • 移住促進の取組が地域の中で浸透してきており、移住者を呼び込もうとする地域の空気感が醸成された。
今後取組みたいこと	• 交流人口・関係人口確保に向けた取組をさらに拡張していきたい。 • そのために、空き家や空き店舗を活用し、ゲストハウスやシェアキッチンを整備することで地域で泊まる場所や飲食できる場所を作っていきたい。



